

2023年3月31日

2022年度 誰でも海を楽しめる環境の創出 事業完了報告書



公益財団法人日本ライフセービング協会

2022年度の「誰でも海を楽しめる環境創出事業」では、全国4会場にて要介助の海辺の利用サポートを行った(図1)。各活動報告を表1~4および図2~5に示す。



図1 2022年の誰でも海を楽しめる環境創出事業で実施した4会場

表1 須磨海水浴場・アジュール舞子海水浴場

目的	海という環境のなかで、感受性を育み、表情豊かに社会参加できるように促す。
日時	2022年8月6日(土)
場所	アジュール舞子海水浴場
参加人数	障がいのある子どもたち5名が参加
サポートメンバー	ライフセーバー
内容	水陸両用車イスやライフジャケットを用いたスイミングサポート。
準備資機材等	ビーチマット、水陸両用車イス、ライフジャケット
参加者の感想	海の中で使える車イスの存在を初めて知り、普段できない貴重な体験ができた。
ライフセーバーへのヒアリング調査(検討推奨事項)	水陸両用車イスの利用には、介助者が1台につき2~3名必要であり、通常の監視救助業務活動との調整が必要である。



図2 2022年度の須磨海水浴場・アジュール舞子海水浴場での活動の様子

表2 静岡県下田市 SEAPARK 柿崎

目的	海という環境のなかで、感受性を育み、表情豊かに社会参加できるように促す。
日時	2022年8月6日(土)~8月14日(日)
場所	静岡県下田市 SEAPARK 柿崎
参加人数	30名が参加。障がいのある子どもたちと保護者
サポートメンバー	ライフセーバー
内容	海水浴場のサービスとして、バリアフリービーチ運営をライフセーバーが担った。 下肢の障害等で歩行が困難な海岸利用者の親水をサポート。 水陸両用車イス体験，ニッパーボード体験
準備資機材等	ライフジャケット，ニッパーボード，レスキューボード，水陸両用車イス
ライフセーバーへのヒアリング調査（検討推奨事項）	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフジャケットの配置数が充実していたので、子供たちの視認性向上が図れた。 ・ライフジャケットの各サイズが充実していたので、体格にあった安全な浮力体を装着でき確実な安全管理ができた。 ・水陸両用車イスの台数が少ないため、利用希望者が渋滞してしまうことがあった。 ・ニッパーボードは、水になれるツールとして参加者に大人気で、水の上で楽しむ術を伝達できた。



図3 2022年度の静岡県下田市 SEAPARK 柿崎での活動の様子

表3 山形県鶴岡市鼠ヶ関旧海水浴場

目的	海という環境のなかで、感受性を育み、表情豊かに社会参加できるように促す。
日時	2022年8月28日(日)
場所	鼠ヶ関旧海水浴場
参加人数	134名が参加。障がいのある子どもたちと保護者
サポートメンバー	ライフセーバー(5名)
内容	水陸両用車イス体験、ニッパーボード、レスキューボード体験、ビックサップ体験、親子シーカヤック体験 その他。
準備資機材等	ニッパーボード、テント、ライフジャケット、水陸両用車イス
ライフセーバーへのヒアリング調査(検討推奨事項)	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフジャケットの数とサイズが充実していたので、多くの参加者が体格にあった安全な浮力体を装着でき、安全管理が確実なものとなった。 ・参加者数に対して、水陸両用車イスの台数が少なかった。 ・ニッパーボードは、水になれるツールとしてたいへん人気であった。 ・レスキューボード、レスキューチューブなどの器材を用いて、ライフセービングに親しんでもらった。



図4 2022年度の山形県鶴岡市鼠ヶ関旧海水浴場での活動の様子

表4 静岡県下田市白浜海岸

目的	海という環境のなかで、感受性を育み、表情豊かに社会参加できるように促す。
日時	2022年10月2日(日)
場所	静岡県下田市白浜海岸
参加人数	パラ選手4名+ライフセーバー及びスタッフ13名 合計17名
サポートメンバー	ライフセーバー(10名)
内容	NSAパラサーフィン エキシビジョンマッチ 2022 NSAサーフィン大会 パラサーフィンの部の選手の救助・救護及び砂浜、海中移動のサポート。 水陸両用車イスを海から陸上への移動に使用
準備資機材等	水陸両用車イス
ライフセーバーへのヒアリング調査(検討推奨事項)	水陸両用車イスを活用し、パラ選手の陸上での移動をスムーズに行うなど、サーフィン大会を安全にサポートすることができた。

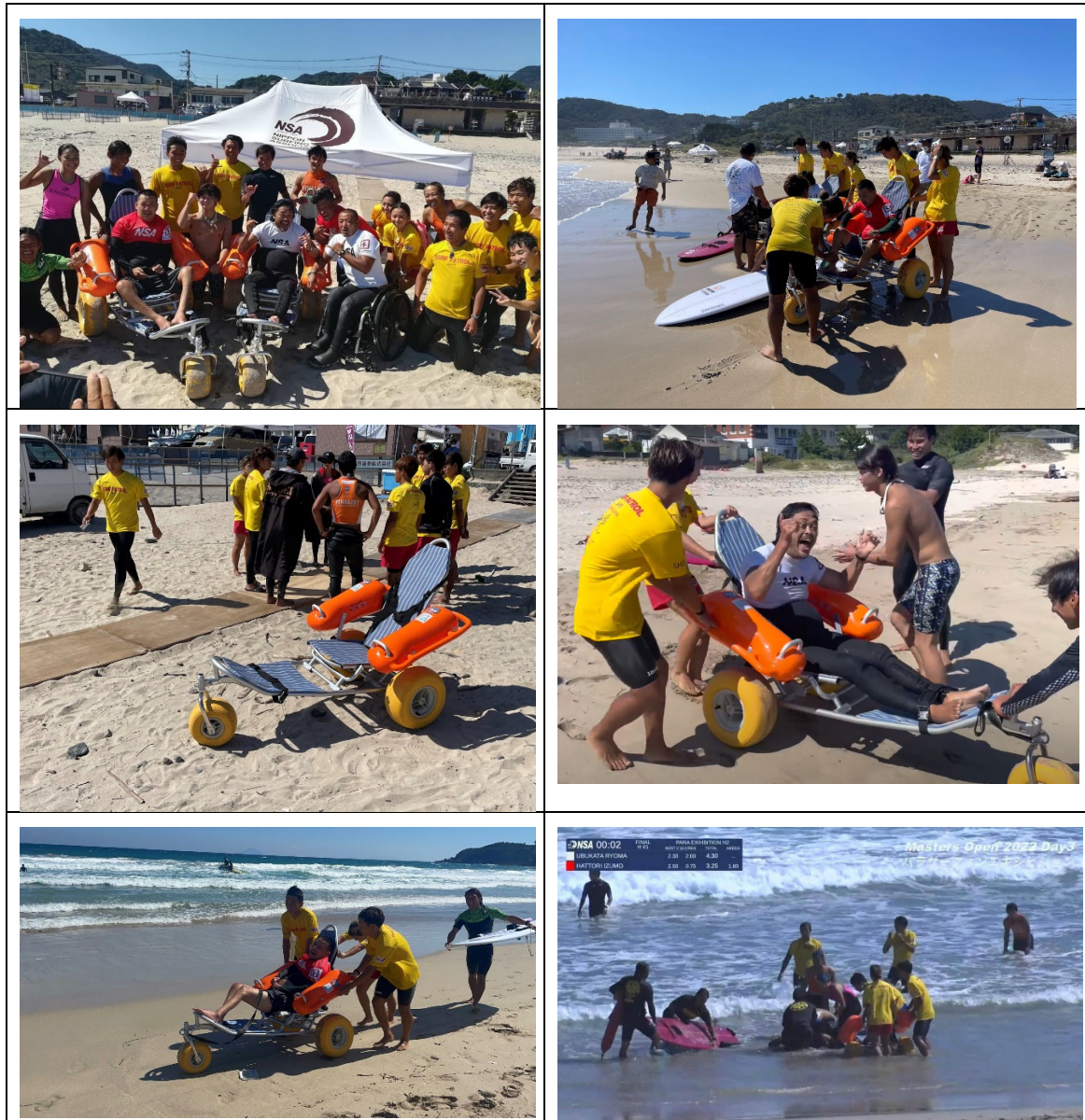


図5 2022年度の静岡県下田市白浜海岸での活動の様子